

泣いていいんだよ

園長 山中 文

新しい年度がスタートして、1か月が経ちました。はじめての園生活を迎えるご家庭にとっては、この1ヶ月は、離れたお子様が気になる時期だったことでしょう。本園でも、4月には、常套句のように「ママがいい～」という声が泣き声と共に聞こえます。入園は新しい環境です。はじめての集団生活となる園児も多くいます。慣れ親しんだお家を離れ、大好きなママやパパと別れて外の世界に触れていくわけですから、不安やストレスがあって当然なのです。

もうずっと昔のことですが、我が家の息子も、入園して1週間はずっと桜の木を見あげながら泣き続けたそうです(後から、担任の先生がそっと教えてくださいました)。なにしろ、その当時、その子は私から50cmも離れると泣きだす子でしたから、入園は相当な変化だったことでしょう。

しかし、息子は1週間後にはピタッと泣き止みました。園でお気に入りの遊びを見つけたのです。モンテッソリー教具の一つでもある「豆移し」でした。小皿に豆がたくさん載っていて、それを箸で別の小皿に移す、という単純な作業なのですが、それがいたく気に入ったようです。通常は、別の小皿に移しきったら、元の小皿に豆をざあっと戻して終了します。しかし息子は、移しきったら、また元の小皿の一つずつ箸で戻し、戻し終わったら、また元の皿から箸で一つひとつ……とエンドレスでやっていたと聞きました。

その様子を知ったのは参観日に行った時です。参観日には、担任の先生は、子どもたちを集めてカタツムリを観察させていました。緑の野菜を食べたカタツムリは緑のウンチが、人参を食べたカタツムリからはオレンジのウンチが出ています。こどもたちは興味津々です。参観した保護者も思わず覗き込んでみていました。そのそばで、我が息子はカタツムリに見向きもせず、一心に豆移しをやっていました。担任の先生は、息子を制止せず、そっと見守ってくださいました。その時の息子には、その時間が必要だと考えられたからです。「こんなに遊び込めるのだから、そのうち、面白い遊びをいろいろ見つけて教えてくれるようになりますよ」と言われました。

その通り、息子は、小学校高学年の頃には、中継空港で乗り換えの飛行機を待っている間に、言葉が通じない海外の子どもたちを集めて、空港内で身振り手振りでかくれんぼをする、というような子どもに育ちました！

もしお子様の様子を気にされている保護者の方々がいらしたら、どうぞ数か月後、1年後の姿を楽しみに送迎していただければと思います。